

# 埼玉 GPN NEWS

Saitama Green Purchasing Network  
埼玉グリーン購入ネットワークニュース

第26号 2021年3月

～環境への負荷が少ない商品・サービスの優先購入を進める  
首都圏初の地域ネットワーク～

埼玉GPN NEWS 2021.3



望月 諭氏

「お客様が使う印刷物をより安全安心な  
工程でつくり、使っていただく」  
望月印刷株式会社 代表取締役社長  
望月 諭氏

埼玉GPN会員である望月印刷株式会社を星野会長が訪問し、望月社長に環境やSDGsの取組についてお聞きしました。



環境への取組を語る望月社長

星野：まず御社のご紹介をお願いいたします。

望月氏：1950年に、祖父が旧大宮市の桜木町で創業しました。その後規模の拡大で、旧大宮赤十字病院の近くで事業を営んでいましたが、新都心建設の区画整理の際に現在の中央区円阿弥に移転しました。現在は、一般印刷のほか、ホームページや動画の制作も手

掛けています。

「グッドスマイルメディア」を合言葉に「メディアコミュニケーションを通じて笑顔と豊かさを創造する」を企業理念としています。

星野：御社はSDGs宣言をされていますが、それに至る経緯を教えてください。

望月氏：創業時から地域との共生というDNAがあり、創業60周年の2010年、地域未来を創造するためのサイト「絆アベニュー」の運営に乗り出しました。2012年にはさいたま市CSRチャレンジ企業に認定され、CSRを社業に取り込み、環境対策・地域貢献活動・働き方改革という3本柱で各種の活動を展開してきました。そして、2020年5月に「SDGs宣言」を行い、「①多様化するニーズへの価値提供」「②企業基盤の強化」「③いきいきとした職場風土の実現」「④地域との協働」の4つを重点項目に設定し取組を進めています。

環境への取組

星野：主な取組について教えてください。

望月氏：印刷業という仕事柄、再生紙での印刷は、それこそ20年以上も前から取り扱ってきました。官公庁とのお取引も古くからありましたので、仕様書の用紙指定に対応してきたという経緯があります。ここ10年、当社ではFSC®森林認証紙を提案しています。SDGsによって、かなりFSC®森林認証紙についても認知されるようになり、当社のWEBサイトでのFSCページへのアクセスも毎月上位にあります。

再生紙は2019年頃、原料不足による品薄の状況に

## CONTENTS

- トップインタビュー 望月印刷株式会社 代表取締役社長 望月 諭氏 ..... 1
- 埼玉グリーン購入ネットワーク 今後のあり方と進め方検討会報告 ..... 3
- 第2回SDGsエコフォーラム in 埼玉 つくる責任つかう責任分科会開催 ..... 3
- 埼玉GPN オンラインミニセミナー開催 ..... 4
- 埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム第1回シンポジウム ～埼玉GPNの取組を紹介～ ..... 4



今後の抱負について語る望月社長

ありました。それ以降は製紙メーカーでも再生紙は徐々に受注生産にシフトしてきており、印刷用紙としては減少傾向にあります。ですので、管理された森林から作られるFSC®森林認証紙の注目が高まってきているのでしょうか。

FSC®森林認証紙を使用した印刷物には認証マークの印刷ができますが、これは、CoC認証を受けた会社で印刷しないと入れられません。この辺りは、まだまだ知られていないようです。審査承認を得るまでには数日ほど時間を要することもあります。印刷用紙として多く使われているのが上質紙、コート紙、マットコート紙で、FSCだから用紙代が高くなることはない、今後は再生紙だけでなくこちらの用紙も候補に検討していただけるとよいと思います。

### 無処理版 CTP を導入

星野：一方で、印刷工程における取組はいかがでしょうか。

望月氏：オフセット印刷という印刷方法では、印刷の版胴に巻くアルミ製の刷版(さっぱん)というものがあります。従来の刷版は、焼込みした版を現像液で流すため廃液や洗浄水、洗油を出していました。CTPプレートですと、コンピュータから直接データを送って絵柄や文字を焼くことができるので、現像廃液や水を出すことなく対応できるようになりました。さらに無処理版にすることで、従来までの処理機器が不要となり、薬品や水、廃液がなくなる環境負荷の少ない生産工程が組める訳です。

2017年から当社で使用している富士フィルムグローバル グラフィック システムズ(株)の完全無処理版CTPプレートは、「カーボンフットプリントを活用

したカーボン・オフセット制度」の認証を取得した製品で、CO<sub>2</sub>削減換算もでき、CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しています。

無処理版の普及は、印刷業界でまだ2割程度。全体のおおよそ8割が従来までの有処理版使用というデータもあるようです。当社では2014年の比較的早い段階でこれらに切り替えができ、対応してこられた点は、環境意識が高かったと思います。

2017年にはLED-UV印刷機とNon-VOCインクも導入しました。揮発性有機化合物(印刷インキや洗浄剤等に含まれるトルエン、キシレン酢酸エチルなどが代表的な物質で大気中の光化学反応により光化学スモッグを引き起こす原因物質の1つとされているもの)の排出を抑制する印刷方法にも対応できるようになりました。

星野：積極的に環境配慮技術を導入されていますね。今後について教えてください。

望月氏：「自分たちでできることは積極的にやる」ことはもちろんですが、「お客様が使う印刷物をより安全安心な工程でつくり、使っていただく」ということは、お客様への環境活動支援につながると考えております。

当社は2020年5月25日にお陰様で創業70周年を迎え、それを機に「SDGs宣言」を発表し、2020年8月には、「埼玉県環境SDGs取組宣言企業」に、2021年1月には「埼玉県SDGsパートナー」にもご登録をさせていただきました。

引き続き、SDGsの三側面「環境」「社会」「経済」の目標とゴールに向けて取り組んでいきます。特に「環境」の取組は、ゴール12「つくる責任」を真摯に受け止め、これまで取り組んできたことをさらに深化させながら、お客様、お取引先、従業員、地域の方々と一緒に持続可能な共創社会実現に貢献してまいりたいと思います。



望月印刷の『環境保護印刷』製品パンフレット

## 埼玉グリーン購入ネットワーク 今後のあり方と進め方検討会報告

### 1 経緯

グリーン購入ネットワーク(全国GPN)は設立から25年が経過し、これまでグリーン購入の普及に先導的な役割を果たしてきました。埼玉GPNは、現在6つある地域ネットワークの1つとして2007年に設立し、全国GPNから情報や人材の支援を受けながら、普及啓発活動を中心に運営を行ってきました。SDGsへの社会的関心が高まるなか、全国GPN、埼玉GPN共にSDGsの普及へと活動範囲を広げる一方、共に会員数の漸減や、会の魅力度・社会へのアピール力の低下などの課題が指摘されるようになりました。

そこで、埼玉GPNでは、会の今後の活動の方向性を検討し、2021年度から事業計画に反映させていこうということになりました。検討に当たっては、16名いる運営委員に対してアンケート調査を行い、それを参考に案をまとめ、さらに会員の皆様からご意見をいただいで取りまとめることにしました。

### 2 運営委員へのアンケート結果

今後の方向性については、「グリーン購入の原点とSDGsなど新しいニーズのバランスを図るべき」が主流(9名)となりましたが、「新しいニーズに積極的に対応すべき」という意見も3名いました。また、特に改善すべき点については、「会員メリットが不明確」、「活動内容のアピール不足」、「会の存在のアピール不足」が主なものとなりました。

### 3 今後の活動の方向性

運営委員へのアンケート結果を踏まえ、運営委員会では案を取りまとめ、さらに、会員の皆さんからのご意見も踏まえて、次のとおり取りまとめたところです。

#### (1) GPNの原点活動の推進

- ア 自治体グリーン購入ランキング等を活用し県内自治体への普及活動を強化
- イ 企業へのグリーン購入の普及を推進

#### (2) 新しい取組の推進とアピール強化

- ア SDGsの普及活動を強化。従来のSDGsの一般的な普及活動から、ゴール12「つくる責任 つかう責任」の具体的な普及活動にシフト
- イ 脱炭素社会に向け、低炭素電力や再生可能エネルギーの選択などについて、グリーン購入の普及活動としてアプローチ
- ウ 金融機関などと連携して、ESG金融のPR活動を実施

- エ キャッチフレーズの活用などにより埼玉GPNに新しいイメージの定着を図る

#### (3) 活動方法の多様化・充実化

- ア 従来のセミナーに加え、オンラインを活用した会員の活動紹介やミニセミナー等を企画
- イ 資金が確保できれば、テレビCMなども企画し、知名度向上を図る

## 第2回SDGsエコフォーラムin埼玉 つくる責任つかう責任分科会開催

第2回SDGsエコフォーラムin埼玉は、同フォーラム実行委員会が主催し、埼玉GPNも共催団体の1つとなり、令和3年1月30日(土)に大宮ソニック会議室とオンラインで開催されました。緊急事態宣言下のため極力オンライン参加を呼び掛けたため、午前の全体会と午後の分科会の延べ参加者370人のうち8割以上がオンラインとなりました。埼玉GPNが中心に進めた「つくる責任 つかう責任」分科会には39人(うちオンライン30人)にご参加いただきました。

このSDGsの12番目のゴールを達成するためには、事業者、消費者の双方の取組が不可欠です。このため、本ゴールの意味や意義を確認し、達成に向けてどのように取り組んでいくのか、先進事例を学びながら考えることとしました。

まず、石川雅紀・神戸大学名誉教授のリモートによる基調講演では、つくる責任・つかう責任とは何かを根本から考え、先生が実施された「減装(へらそう)ショッピング」の取組が紹介されました。続いて、つくる責任として望月印刷(株)の望月 諭代表取締役社長から「ステークホルダーとの共創で目指す地域社会と自然環境の保全・保護」と題してSDGsの取組が紹介されました。次に、つかう責任として認定NPO法人彩の子ネットワークの関 昌美代表理事から「おおきくなったね!×おおきくなってね!子ども服交歓会プロジェクト」と題して、子供服のリユースを通じた地域づくりの取組をご紹介いただき、そしてNPO法人フードバンク埼玉の永田信雄理事から「食品ロス削減とフードバンク埼玉」として、事業者と消費者をつなぐフードバンクの活動をご紹介いただきました。最後に、質疑応答を含めて出演者全員によるパネルディスカッションを実施し、事業者のつくる責任も消費者のつかう責任もまだまだ不十分であること、さらに進めていくためには、事業者、消費者の連携を深めていく必要があること、それには行政やNPOなどの

団体が重要な役割を果たすことが確認されました。



パネルディスカッションの様子

## 埼玉 GPN オンラインミニセミナー開催



毎日興業(株) 田部井代表取締役ご発表の様子

SDGs12目標の達成に向け、気軽に参加でき、会員の取組拡大および相互の情報交換、コミュニケーションを図ることを目的に令和3年2月25日(木)、32名の方々の参加を得てミニセミナーを開催しました。

第1回目となる今回は、SDGs経営の概要について星野会長から説明の後、埼玉りそな銀行経営管理部伊藤舜輔SDGs推進室長からESG金融を取り巻く社会の情勢とりそなグループとしてのSDGsの取組および中小企業に向けたサポートについてご紹介いただきました。続いて、毎日興業株式会社 田部井代表取締役から“All Together”をスローガンとする地域に根差したSDGsの取組をご紹介いただきました。

今回、オンライン開催により多くの参加者を得ることができ、活発な意見交換も行うことができました。アンケートからも企業の具体的な取組を聞きたいとのことが多く、次年度も引き続き開催していきたいと思えます。

## 埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム 第1回シンポジウム ～埼玉GPNの取組を紹介～

埼玉県では、県民、事業者、行政が連携してSDGsを推進するため、SDGs官民連携プラットフォームが設立され、令和2年10月23日(金)にそのキックオフ・シンポジウムが開催されました。知事、県議会議長、さいたま市長のご挨拶の後、埼玉経済同友会代表幹事によりSDGs推進宣言が行われました。その後、「「論語と算盤」とSDGs」と題した澁澤栄一の玄孫の澁澤健氏による基調講演、さらに取組事例として、埼玉県建設業協会及び(株)クリタエイムデリカと共に、埼玉GPNの取組が星野会長から紹介されました。当日は雨天の中、コロナ対策のためさいたま市文化センターの会場の定員を約1/3に絞っていましたが、それでも参加者517名と大変盛況でした。この盛り上がりが本県でのSDGs推進の大きな起爆剤となることを期待したいと思います。



埼玉GPNの取組を紹介する星野会長

### ■ 入会案内

団体会員、サポーター(個人会員)があります。申込書はHPからもダウンロードできます。ぜひ一緒にグリーン購入を。

### ■ 発行：埼玉グリーン購入ネットワーク

【事務局】〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和15-6-5-3F  
TEL.048-749-1217 / FAX.048-749-1218  
E-mail goto@kannet-sai.org  
Home Page <http://www.saitamagn.jp/>

このニュースレターは、GPN-GL14「印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。

